



筆者が体調不良を経験した際に測定中のモンゴル産ラジウム鉱石（愛称ミロク石）が示した放射線量測定値の推移を上図に示す。

筆者は2回の車移動による旅行で疲労し、頭痛を伴う体調不良を感じていた。その経緯を緑の線で示している。この際にミロク石は放射線量を増加させ筆者を治療しようとしているかのような動きを示している。

日本時間朝9時前後にピークを迎えるミロク石固有と思われるリズムは崩すことなく、ピーク線量率のピーク値が増加していることがわかる。そして筆者の体調が回復を実感できる頃に増加していた線量率は元に戻る傾向を示している。

興味深いのは図の A の部分である。筆者が回復を実感した時間より約6時間程前にミロク石側は放射線量を“下げて”いるように見える。つまり筆者の健康状態が回復するメドがたったことを“事前”にミロク石が知っていたかのような動きを示していることだ。その6時間程前の段階では筆者の症状は悪いままだったのに。である。実は三角で示した“回復を実感”とした時点においても未だ多少の頭痛症状が多少は残っており、完全な体調回復とはなっていなかったのであるがミロク石の側は既に問題なし！と6時間ほども早く判断して放射線量を弱めているように見えるのである。人の体調とその変化・回復することを数時間程度“先読み”あるいは“予測”する能力を備えているともとれるのである。

この事例ではミロク石が距離的に遠く離れた筆者の旅行先での症状まで読み取っていたのかどうかははっきりしない。つまり人の体調をどの程度の距離をおいても読み取り、判断できる能力があるのか等は今後の研究に委ねることになる。ただ図の B の部分つまり筆者が遠距離に居る間のミロク石の放射線量があまり増加しないといった傾向が見られることから比較的近距离に居る人について判断・治療が可能なのかもしれない。

なおこのレポートではミロク石が筆者を治療しているかのような表現をしたが、実際に治療しているのか、あるいは単に人の体調をモニターした結果なのかは今後検証が必要な部分である。